

『きのこはともだち』

鈴木 きのきの

今回は、児童書の紹介をいたしましょう。何故かって、よちよち歩きの女の子がいて、なかなかきのこを見つける冒険は出来なくなってしまったからです。

この女の子のお母さんというのがきのこ好きで、きのこの絵柄のついた洋服を娘に着せたり、きのこのぬいぐるみで遊ばせたりしているわけで、私からすれば、困ったもんだと思う次第なのです。いきおい、読み聞かせもきのこの絵本だとか...

幼児たちは絵本がすき

1歳ぐらいの幼児というのは、絵本がとても好きなのです。「はらぺこあおむし」や「いないいないばあ」や「ノンタン」シリーズ等のベストセラーは既にご存知の方も多いと思います。そのような絵本に紛れて読むのをせがまれるのが、今回、紹介いたします『きのこはともだち』（構成／松岡達英 絵と文／下田智美 偕成社）なのです。副題に、—さがす・みつける・たべる—とあるように、まず、きのこを探すことから始まります。主人公の女の子がリュックサックを背負い、野原から森へ進んでいくのです。野原、松林を通り抜け、そして、大きなタマゴタケに出会



います。また、進むと、そこは雑木林。ウサギやタヌキ、ムササビやモモンガ等も登場してきます。さらに、ブナ林、カラマツ林を抜けて山の頂上に着きます。次に、毒きのこ、変わった形のきのこ、きのこ狩りのマナー、調理法等が並びます。最後には、女の子が、「たくさ

んの きのこに であえて、大満足。」と言いながら、ツキヨタケが光る夜の森を後にします。

誰もが楽しめる

児童書ながら、決して、侮れない代物で、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが読んでも楽しめる絵本です。キノコの図案もきれいですし、よく目にするキノコがかなり網羅されています。また、生態のこともわかりやすく説明されており、子どもから大人まで楽しめること間違いなしだと思います。

さて、この本の何が幼児を惹きつけるのか？まさか、キノコの魔力（魅力）のせい？...何のことはなく、ウサギやタヌキなど動物の絵が気に入っているだけなのでした。きのこ好きのお母さんは、がっかりというところでしょうか。